

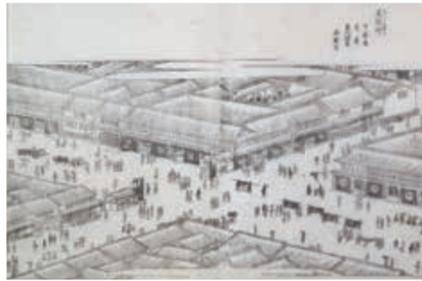
生まれ変わった銀座

外国人居留地に近い銀座も、いち早く変化してきた。

ここでは銀座の町なみを見てみよう。

西洋風の建物が建ち並び、新しい文化が取り入れられている。

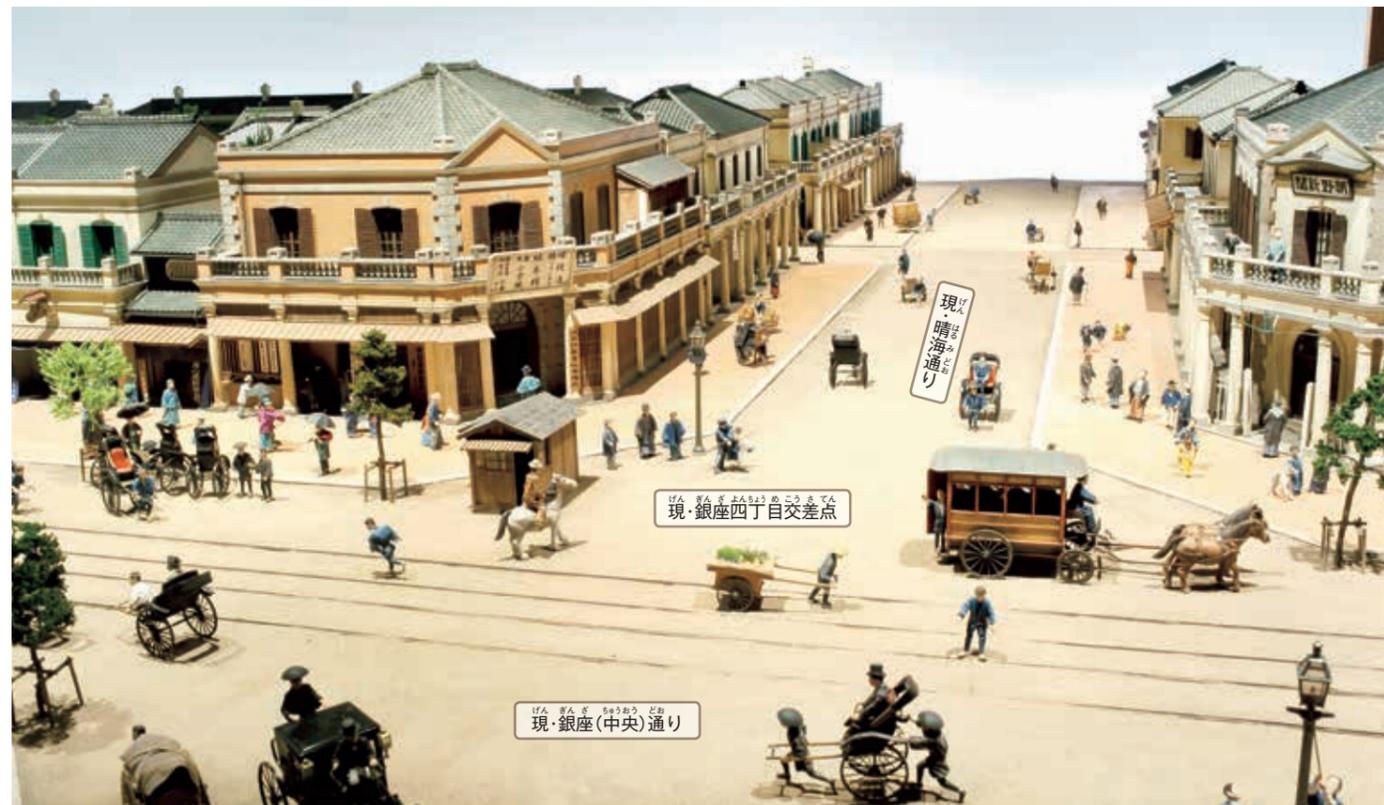
しかし、それは大きな火事がきっかけとなったのだ。



江戸時代の銀座五丁目のようす

<おしゃれな町なみ>

下のものは、1874(明治7)年ごろの銀座のようす。中心が銀座四丁目の交差点に当たる。建物はれんがでつくられている。

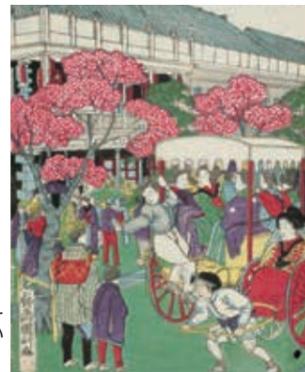


現在・銀座(中央)通り

れんがづくりの町に馬車や人力車などの乗り物が行き交う。(協力:江戸東京博物館)

新しいものが続々と!

新しい建物や乗り物が現れた。生まれ変わった銀座は、明るく、華やいだ町となった。



桜や松が植えられて、きれいな町になった。



あかりがつけられ、夜でも明るくなった銀座。



2階建ての建物

1階は屋根をつけアーケードにし、2階にはバルコニーをつかった。

れんがの町をつくった人



トーマス・J・ウォートルス
土木建築技術者で、大蔵省で働いていた。1872(明治5)年から銀座れんが街の設計、工事の責任者を任された。

お店がたくさん

江戸時代の銀座は職人たちが多く住む地域だったが、できあがったれんが街は、商人や新聞社などの会社が借り受け、お店を次々に開業していった。現在、銀座はたくさんのお店が集まるにぎやかな町だ。それは、このれんが街からはじまったのだ。



店が建ち並んだ銀座通り。

どうしてれんがづくりになったの?

1872(明治5)年2月26日の午後3時ごろ、和田倉門の辺りで火事が起きた。強風にあおられて、火はまたたくまに燃え広がった。銀座、築地、明石町一帯を焼きつくした。この火事を「銀座の大火」という。明治政府は、今度はヨーロッパのような、火事になっても燃えにくいれんがで近代的な建物をつくることにした。こうしてできたのが、銀座れんが街だ。



銀座でつかわれたれんが。

れんがは火に強いぞ。プー!



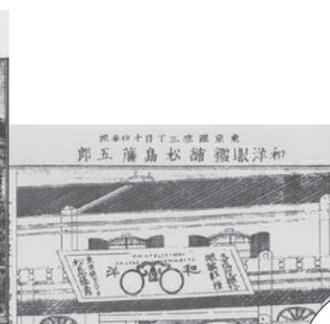
「銀座の大火」を報じるかわら版。赤い部分が焼けたところ。



これは今の丸善だね!



西洋家具を売る店。



めがねを売る店。

ちょっとちがうよ、西洋風……?

町なみがきれいになり、あまりの変化に西洋人も日本人もおどろいた。景観は美しいという声もあったが、れんが街のつくりは見かけだけのものだと感じる西洋人もいた。

本場から見るとちょっと…。



こんなに変わるとは!?